

発行所
医療法人財団五省会西能病院
〒930 富山市五福1130
TEL (0764) 41-2481(代)
発行人 西能 正一郎

五省会ニュース

五省
一言行に恥ぢるなかりしか
一誠意に欠くるなかりしか
一努力に憾みなかりしか
一不精に怠るなかりしか

全国薬事管理研究会 富山県分會會室で開催

社団法人日本病院会主催、富山県公的病院長協議会、富山県病院薬剤師会後援の全国薬事管理研究会は、六月十八、十九の両日にわたり、富山県公会堂別館五階ホールで、県内外の病院から約百四十人の薬事関係者が参加して開かれた。

第一日目は、片山孝一同病院会薬事管理研究会委員の総司会ではじまった。同病院会の常任理事、西能正一郎氏(西能病院院長)が開会のあいさつに立ち、「富山県は

薬剤師は外へ進出しよう

村田県公的病院長協議会長が特別講演

ちこまれたものだと思ふ。もっと、薬の価値を見直さなければならぬ。医療費の25%から30%が薬代であるということ刻みこんで患者と接する

薬剤師に期待するもの」と題して特別講演をした。概要はつぎのとおり。

「これからの病院がどう変わるかは簡単なものでなく難しい。経済の予

測が困難なので、なおさらだ。いまの一番大きな問題は十三兆円という日本の医療費の増加である。毎年、一兆円のノビを示している。いまは大丈夫だが、何か手を打たないと破算するだろう。高齢化時間半にわたり、これらの病院のあり方と、薬

薬がどう飲まれて、どう効いているかを調べるべきだ。そして、薬剤師の価値を高めてほしい。

医の倫理が欠如している。ソクラテスの二千年前から医の倫理は変わっていない。医療の本質は「生きた愛」である。

午後から、シンポジウム「病院薬局と漢方製剤」ム「病院薬局と漢方製剤」があり、垣花満同研究会委員を座長に、今田屋章富山医薬大附属病院、和漢診療部副部長が「医師の立場から」、堀越勇同大教授、同附属病院

今なら高校二年生にあたる十六、七才の子供が書いたものとはとても思えない。わずか三週間の入院教育で人間がコロリと変わって突然候文を書くようになる。(もともと文体は稚拙でよくよく体裁がととのっている程度であるが)父、母も、おそらく驚いたことと思うが、今の私でも自分の書いた文章であるとは信じられない位で、墨色は、今も生々として居る。

おそろしくこの頃は、若冠十六才の子が、本気になって国の為死ねたために、生死を超えた心構えがこのような大転換をやつてのけ、不可能を可能にした奇跡が起つたのではなからうか。

私はこれを自分の文とは思わず、国が亡びようとした時の少年の手記として敢えて紹介したい。

もうすぐ、三十八回目の終戦記念日がくる。

一枚の葉書

西能 正一郎

輝く天長ノ佳節に當り、入校第一報ヲ送ルヲ得ルハ洵ニ感激措ク能ハザル次第ニ御座候。心身共ニ明朗頑健、明日日、一日ノミニテ入校教育モ終了致シ、帝國海軍兵學校ノ伝統ヲ雙肩ニ課セラレ候。萬一、此ノ重荷ニ撓マントスル時之有候ハバ、出発時、頂キシ御教訓ニ片方ヲ荷ハセ、必ズヤ、先頭ヲ駆上ル所存ニ御座候。

「吾ニ不可能ノ語ナシ」

ト言ヒシ、ナポレオンノ語、今始メテソノ真価ヲ見出シ候。海軍ニハ終点ノナキモノニテ、極限ハ極限ヘト常ニ移動致スモノニ御座候。御報告

シタキ事沢山之有候ヘドモ、通信許可トナレバ何ヨリ述ベシカモ存ジカネ、龍頭蛇尾ニ終ルヲ御一笑被下度候。紫雲英ノ田面、山田川ノ水音、緑ノ麦島、目先ニチラツツキ居候。吉井様、得永様始メ親類一同様ニ宜敷御高配被下度候。

愈々御壯健ヲ敢願ヲ祈上候。敬具 (原文のまま)

只管、耳ヲ閉ジ、目ヲ閉ジ……

筆墨にしみる純潔

昭和五十二年のお正月、私が生家に帰つた折、母から「おとうさんがしまつておいてくれたものだよ」と言つて古びたボール箱を渡された。中には私が子供の頃から家に送つた信書の全てが、年代

順に分類し、着信番号をつけて保存されていたのである。

齡の割に早く老境に入った父は、すでに恍惚の人

に近く、日頃の対話も困難になつていたのであるが知らぬ顔をして寝ている父に、ピシヤリと鞭打たれたようなショックを覚えた。ひとつひとつ読み返してみると、その頃の自分の姿が想い出される。

と同時に、この齡になつてみると、良い氣になつて勝手なことを綴つてきた息子の手紙を受け取つた親の喜びや悲しみが痛いほどよくわかつた。孝行面をしてさつぱり孝行らしいことをしなまに親を老いさせてしまつたやうなせなさが残つたのである。

そして、こういうことこそ、人の親のなさねばならない事だと教えられた。今は、その父はずでに亡上様ヨリ「家恋シ寂シナドノ女々シイ心起サズ」ト有候イシガ、洵に意外ノ御言葉ニテ、スデニ身ヲ捧ゲシムハ不用ノ御言葉カト存ジ候。沖繩ノ戦況、皇國否、大東軍ノ存亡ヲ決セントスル時、私、只管、耳ヲ閉ジ、目ヲ閉ジ、逸心ヲ抑ヘテ本務遂行ニ邁進致シ、一日モ早く特攻ノ士トシテ救國ノ礎ヲラン事ヲ願フモノニ御座候。江田島ノ地、麥ノ取入モ終了致シ果テ求ムル雲雀ノ声天高く響居候。敬具 (原文のまま)

御両親様、御激励ノ御芳書有難ク拝見致候。昨年ノ今頃ヨリ希望ニ燃エテ始メテ受験準備等々、ソノロニ想起セラレテ懐カシク又決意ヲ新ニ致候。父上様ヨリ「家恋シ寂シナドノ女々シイ心起サズ」ト有候イシガ、洵に意外ノ御言葉ニテ、スデニ身ヲ捧ゲシムハ不用ノ御言葉カト存ジ候。沖繩ノ戦況、皇國否、大東軍ノ存亡ヲ決セントスル時、私、只管、耳ヲ閉ジ、目ヲ閉ジ、逸心ヲ抑ヘテ本務遂行ニ邁進致シ、一日モ早く特攻ノ士トシテ救國ノ礎ヲラン事ヲ願フモノニ御座候。江田島ノ地、麥ノ取入モ終了致シ果テ求ムル雲雀ノ声天高く響居候。敬具 (原文のまま)

あすなろ

亡くなった池田弥三郎氏といえは魚津の洗足学園を思い出すが、この学園には随分変わった先生が多い。なかでも創立以来五十年勤め学園長になり九十歳で引退した今岡信一郎翁は今百二歳。元氣で時々学生の前で立っている。▼「人生は出会い」が信念と話す翁の体験談を先日聞いて胸を打たれた。地球に四十億人住んでいるがそのなかで死ぬまで何人かの人に出会える。しかもそのなかで顔を合わせて話をする人間は百年生きても数えるほどの人に過ぎない▼その数えるほどの出会いで人生がよくも悪くも百八十度変わることもザラなのだ。今の親を親として生まれたのも出会いなら夫婦になつたのも、そして親子になるのもすべて運命の出会いである▼今岡翁の話は百年の人生を決めた人々との出会いをあげる。そして何気ない出会いでもそれがいかに大切で、いかに積極的に自分の人生のプラスにしたかを話す。入院するものもその病院との出会いならベッドを隣り合わせるのも、担当の医師、看護婦もすべてみな貴重な出会いだ。という今岡翁は病氣の話をした▼つまり、「この病院、この人たちの中で、こうして病氣でいるのも一つの人生への出会い。天の与え」と素直に温く受けとり、日々是好日。病氣と一体となって生きる「ことだ」という。もうダメだといわれた十年前の大病を今岡翁はこの心で全快させた。自然、宇宙、人との出会いと一体感こそは長寿の秘けつでもあるうか。

暑中お見舞い申し上げます 昭和58年盛夏

- 医療法人 財団五省会
- | | | | |
|------|--------|----|-------|
| 理事 | 西能正一郎 | 理事 | 林敏彦 |
| 常務理事 | 住栄作 | 理事 | 米田寿吉 |
| 理事 | 岸口繁 | 理事 | 西能綾子 |
| 理事 | 石川実 | 理事 | 尾山征一郎 |
| 理事 | 笥田英二 | 理事 | 重松尚 |
| 理事 | 稲垣忠一 | 理事 | 神沢幹夫 |
| 理事 | 西能孜 | 理事 | 坂本重一 |
| 理事 | 西能亮一 | 理事 | 土田文一 |
| 理事 | 豊田富美 | 理事 | 古沢政夫 |
| 理事 | 堀松井元太郎 | 理事 | 堀政夫 |
- 西能病院職員一同

健康法の問題 (16)

矢野 三郎

夏の健康法といふは、昔から「夏に海水浴をし、冬に日光浴をせよ」とか、「日光浴をせよ」とか、

紫外線は皮膚を老化

海水浴は日照りの強くない時間に

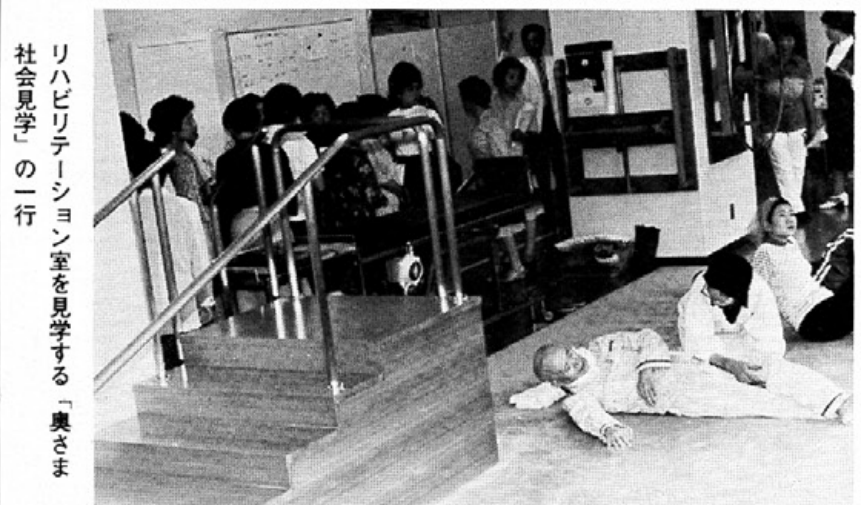
紫外線は皮膚を老化させる。夏の健康法といふは、昔から「夏に海水浴をし、冬に日光浴をせよ」とか、



日光浴の注意

奥さま社会見学

「奥さま社会見学」



リハビリテーション室を見学する「奥さま社会見学」の一行

明るくて清潔、訓練中の患者さんを励ます

「奥さま社会見学」(富山新聞)の主催の一環として、六月十五日、午後、西能病院を訪れた。

塩分摂取あれこれ

食品に含まれている塩分量は、一日の摂取量は、成人で6グラム、小児は4グラム、乳幼児は2グラムとされている。

国の医療費抑制

医療費抑制策が、厚生省の局長からは、医療費抑制策の推進を要請されている。

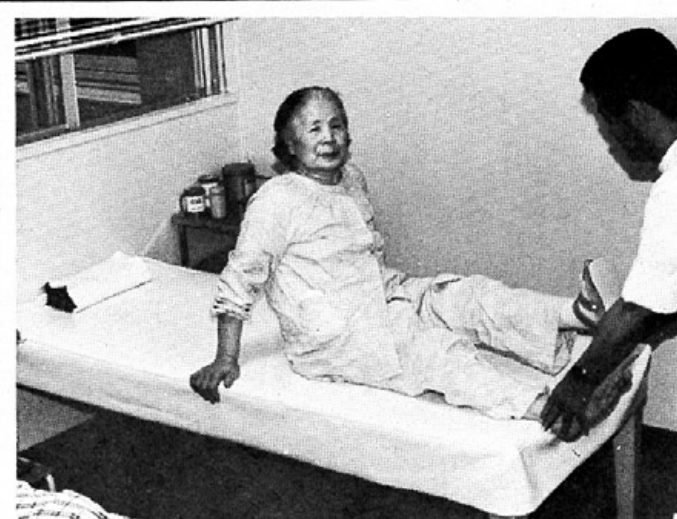


西能病院 理事長 西能 正一郎

医師は経済の勉強を 生きのびる心構えが大切

医療技術は日進月歩で、つきつぎ新しいものが開発され、新しき付加価値をもった検査方法や、医療機器が出てくる。

東京→富山。善意の救急車



訓練に余念がない西能さん

三人の孫を引き連れて、富山から東京見物に出かけた七十一歳のおばあさんが、左大腿骨を骨折して東京で三月の入院生活……

おばあさん、よかつたね

七月二日夜、同病院から運送担当の石倉さんと三原さん、それに次女の夫の二人が救急車で迎えに東京へ。

国はシャツポを脱げ 老健法は姑息な手段

「国はシャツポを脱げ」といふのは、老健法(老人保健法)が姑息な手段であるという主張だ。

思い出を語る

中島 このへんで、院長に叱られた話をひとつ。一同、大きな声で、こころをこころで、こころで。

ねんりん

西能病院のあゆみ 院長 私の場合は、富山市医師会の学校の生徒でした。そのころの私は三十四歳、三十九歳二月からでした。

飛ばしてきた「こらっ」

おやじ的な親しみも 飛ばして、さげすむ役割を一手に引き取りました。

わたしは「心理」

「わたしは「心理」」 わたしは「心理」 わたしは「心理」 わたしは「心理」

美しいものが 見えてきた

〈第十五信〉
松下英勝

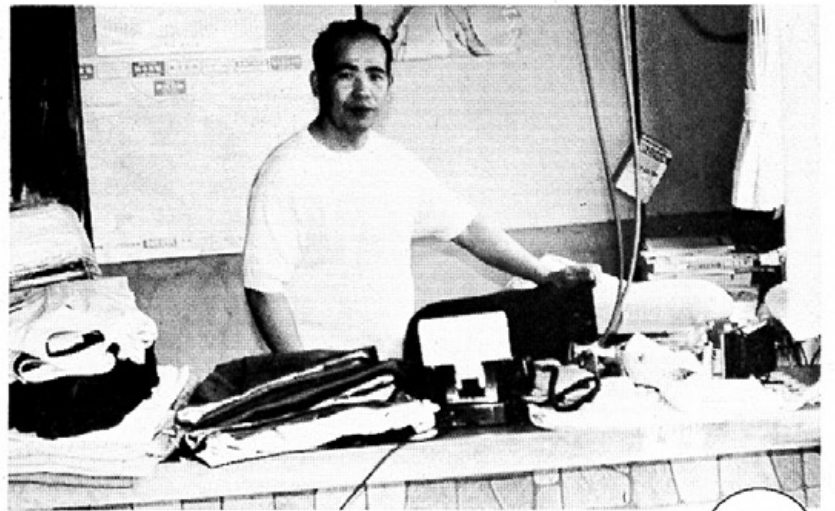
☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆



さあ出発！ おぼわっている松下さん

姫路地方のツユの降雨量は、記録的に少なかったようですが、田んぼの水には別に困った様子もなく、当園近辺は緑一色です。

院長先生はじめ皆様にはお変わりありませんか。自分には相変わらず毎日を頑張って、背伸びして、トントンカンなことばかりして、それでも、やっぱり



クリーニングの仕上げに精を出す市堰さん

大地を踏む

富山市呉羽富田町
市堰秀夫さん(四〇)

クリーニングのマルフク商会。シュツ、シュツと、蒸気アイロンでズボンを仕上げる市堰さんの左手が軽やかに動く。妻の富美子さん(三九)がお手伝いに懸命だ。夫婦一体の作業が、ほほえましい。これも一家が協力して苦難の道を乗り越えてきた賜物だ。

仕事が生きて甲斐

この間、店の仕事は富美子さんと母たかさん(六六)そして二人の子供(長男中学三年、長女小学校五年)ら家族が協力して守った。長男が洗たく物の集配によくでかけた。「家族がよくやってく

ねるので、ここで負けてたまるかと、奮起しました」という市堰さん。家でも朝夕、リハビリに励み、昨年暮れから、洗いの仕上げも一人でやれるようになった。そして三月十二日、新車を購入、左手足で運転できるように改造した。左手で操作できるようにハンドルの握り手がついていて、子供に教える。左ききだったことも幸いした。

朝八時ごろから夫婦で集配にでかける。市堰さんは運転だけ。お得意先を回るのが富美子さんの役目だ。二時間たつぷりかかる。「車がミゾにはまったりして、三回ほど、こわいことがありましたが、

西能病院に勤務して

西能病院は、内科の充実、病棟の増設にとともに、四月から七月にかけて、看護婦十人を新採用した。こんども、看護婦、准看護婦若干名を採用する。山本看護部長は、「よい人間関係を保ちな

施設に恥ない看護を

しょうやかな造りと、完璧な設備にびっくり。県立中央病院と、その出身のドクターの元での内輪巡りでしたが、今度は、ナウイカラーの病院で施設に恥じない看護をと、思っています。

病院に役立つ人間に

早いもので、もう一カ月半になります。なかなか仕事に慣れなくて、皆様に迷惑をかけていますが、早く、この病院に役立つ人間に成長したいと思っています。

患者さん中心に

看護がパターン化されていて、患者さんのニーズが満たされていないように見受けられる点もありません。患者さんの気分などで、欲しい時にしつてあげる患者さん中心の看護を心掛けます。

豊かさへの修練を

日ごろ患者さんと接し、如何にしたらよいか。その看護の仕方など、結局、自分というものを豊かにし、強いものにするという修練を毎日積んでゆかなければならないと思っています。

富山弁にもなれて

栃木県の自治医大附属病院から富山へきて、三カ月になりました。富山弁にもなれ、自分の口からもちろほらできるようになってきました。みなさま、いろいろと、アドバイスをください。

我を生かす道

子供と夫のためを考えて、看護婦をやめて家庭へ入りましたが、やはり、「この道より我を生かす道なし」と、思いました。大変だと思いますが、頑張っています。

大変だが、頑張る

何か、仕事をしたいと思いつながら、迷っていましたが、やはり看護婦の道を選びました。大変ですが、皆さんのご指導をうけて、頑張ってみますから、よろしくお願ひします。

フレッシュ・ガールズです

私たち三人は、七月から動いているフレッシュ・ガールズです。ガンバリマース!!



高谷昭子



長沢順子



桔梗淳子

寝ころんで貝拾い

自治会長に選ばれる

先日、愛光園生一同、姫路市営バス(リフト付き)に乗って、新舞子の浜辺へ潮干狩りに連れていかれました。この日、松下は「一体、この俺が沖で貝を取って遊ぶことができるのか」と、一人思案していました。それが、早稲先生(指導員)の「松下さん、沖へ行きます」の声に、その気になって、80キロを

寝ころんで貝拾い

自治会長に選ばれる

に拾いました。豊漁。翌日の愛光園の昼食は貝汁でした。オイシカッタノ話交りますが、愛光園自治会園生五十人の自治会長に、不肖、松下英勝が四月から選ばれ、がんばっています。任期は一年で、来年三月までです。何故、もっと早く報告しなかつたかと申します